

資料6

畜産業が直面している 物流問題について

青森県畜産・飼料コンビナート振興協会

矢元 淳一

現状と課題

【畜産業に関わる主な物流】

①飼料配送

飼料基地～農場へ

②商品配送

処理場～食卓へ

①飼料配送

【現状と課題】

- ・深刻な運転手不足、ドライバーの高齢化

運転手の労働時間制限 → 収入減 → 魅力減 （解消すると配送コスト増）

- ・日中の配送業務に固執すると朝一の飼料基地での積載順番待ち渋滞発生

積込時間帯の分散 → 深夜や早朝での積込 → 賃金割増し → コスト増加

- ・配送時間短縮の為の高速道路利用

配送効率良化するも、結果として物流コスト低減ならず。

①飼料配送

【現状と課題】

- ・山間部に位置する農場が多く、輸送効率の優れた大型トレーラー等で運べる道路環境にない(=小型・中型バルク車での配送が多い)
また、冬季間においては、道路の除雪が遅くなり、農場への到着が遅れ、畜産物への飼料供給も途切れるケースあり(=運転手の長時間労働)

県道、市町村道の整備 → 道路幅拡張、除雪体制強化

道路脇の立ち木や枝の伐採、草刈りなどの整備向上でも改善できるケースあり。

②商品配送

【現状と課題】 ※当社ブローラー商品の場合

- ・三沢、五戸、八戸、軽米地区において商品を製造するも、製造商品の8割が関東や関西圏の都市部へ配送（賞味期限あるフレッシュ品が多い）。
- ・2024年問題に対して、昨年のうちに配送ルート見直し等に対応しているが、積載効率の低下もあり、物流コストが増している。
- ・コスト上昇インパクトは、昨年比＋8%。

その他の物価上昇も重なり、更なる値上げ要請あるも、商品への価格転嫁が追い付いていない状況。

②商品配送

【現状と課題】 ※当社ブローラー商品の場合

冷蔵・冷凍食品を保管する倉庫の整備や確保。

都市部までの配送時間を考慮した立地場所（長時間運転回避）、

戻り便の物量安定化（商品は、ほぼ毎日発送も、戻り便の物量が不安定）

→職種の垣根を超えた物流体制の検討も必要。

（都市部から青森への物流品？）